

特定非営利活動法人 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

2014(平成26)年度 事業報告書

(2014年6月1日~2015年5月31日)

目次

◎ 2014年度事業概要	・・・・・・・・・・ p.2
1. 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、 それを広げる事業	・・・・・・・・・・ p.3
2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業	・・・・・・・・ p.3
3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業	・・・・・・・・・・ p.4
4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業	・・・・・・・・・・ p.4
5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業	・・・・・・・・・・ p.4
6. プレーリーダーの養成に係る事業	・・・・・・・・・・ p.5
7. 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業	・・・・・・・・・・ p.6
8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業	・・・・・・・・・・ p.7
9. 組織・運営について	・・・・・・・・・・ p.10

## 2014年度事業概要

東日本大震災発生から4年を経過し、徐々に完成しつつある復興公営住宅等に仮設住宅から移っていく人も増えてきた。仮設住宅では、当初2年間と想定されていた期間を遥かに越え、互いに不安を抱えながらもコミュニティが支えになったケースも見られたが、震災発生後の生活も新たな暮らしに向けて大きな変化の時を迎えている。4年という歳月は、子どもたちの成長にとっては大きな意味を持った期間である。震災時0歳だった赤ちゃんも4歳となり、3歳以下の子どもたちは直接的な震災体験を持ち合わせてはいないが、親子ともに始まった新しい暮らしの中で様々な苦労や想いがあったように感じられる。遊び場づくりは、そうした親子が緩やかに結びつき、互いに楽しみの場を創りだすことで暮らしの意味を再発見していく試みでもある。

2014年度事業は、前年度に引き続き、仙台市近郊を中心とした沿岸地域での遊び場づくりが基軸となった。震災発生直後から、仮設住宅やその周辺地域の公園・校庭などで巡回型遊び場づくりを続けてきたが、今年度は「仮設」住宅から「恒久」住宅への再建の動きが進む中、復興公営住宅が立地し集団移転先ともなる地区や現地再建区域でも新たに遊び場を実施した。

日本公園緑地協会と共に取り組む復興庁の「新しい東北」先導モデル事業の取り組みでは、調査・地域の研修を繰り広げる段階から実践的な遊び場づくりの段階へ移行し、岩沼市での活動は農園を使った自由度の高い遊び場や地域組織をサポートして運営していく遊び場づくりに向かい、仮設住宅地から復興住宅地への移行に合わせて地域の人たちで行っていく姿を見通すことができた。仙台市荒井東災害公営住宅での新たなコミュニティづくりに合わせた活動では町内会の立ち上げを待ちながら、既存集落にある下荒井公会堂での乳幼児広場の活動を始動させることで、相互の交流が図れるよう工夫した。ニーズが高い利用者が両方の場に関わる機会が生まれることでゆっくりと街の中で熟成されていくような出会いのきっかけとなろう。

仙台市沿岸部の被災3小学校は、2015・16年度末の統合・閉校が正式決定した。そんな中、遊び場では、微力ながらも統合後の子どもたちの融和・相互の尊重を考慮して活動を行なった。

巡回型遊び場では、震災後、何台かの貸与・寄贈された車で運用を続けてきたが、日本遊び場づくり協会より貸与されていた初代「プレーカー」は、今年になり協会から正式に譲渡された。一方「シロウ」号は車両の老朽化が進んだため、新年度からは新たな「あそブースター」号にその役割を譲ることになった。

冒険広場については、前年度海岸公園復興基本計画が示され、2018（平成30）年の復旧が決まった。2014年度は整備工事に向けた設計等が進められたが、そのプロセスで、震災前より現地を見ているからこそその提案を行なって、よりよい形での再開へ向けて尽力した。

昨年末には、組織運営の基盤づくりとして認定NPO法人化を達成することができた。まだ遊び場がコミュニティ再生に繋がる奥深い取り組みであるという認識は十分には広がっていないが、地域再生が国の大きなテーマになり、遊び場が多くの人たちの心の健康を取り戻す、楽しみや癒し、子どもたちの発達に関わる多様性を備えていることを改めてこの震災を通して深く学ぶ機会となっている。認定NPO法人化を機会に少しでも多くの人たちに遊び場に寄せるそれぞれの想いを伝えられるようになれば幸いである。

代表理事 佐藤 慎也

## ◎ 事業計画に掲げた「重点的取り組み」の達成度評価について

2014年度事業計画において掲げた6つ重点的取り組みについて、4段階の達成度評価を行なった。定款に沿った事業区分に基づく「1. ～ 9.」の記載内容との対照と合わせ、本表にまとめる。

「重点的取り組み」項目	取り組んだ事業 (定款区分による)	達成度評価 (◎-○-△-×の4段階)
①被害の大きかった地域を中心に取り組む遊び場づくり —「仮設」住宅から「恒久」住宅への移行が進むなかで	事業1. 事業8. (2)(3)(4)	◎ 復興公営住宅や、現地再建区域など「恒久」住宅となる地域でのニーズに対応した遊び場を展開した。
②海岸公園の再開を見据えた、冒険広場周辺での取り組み	事業8. (1)(5)(6)	◎ 概ね達成
③「震災後」も見据えた、新たな拠点確保への取り組み	事業7.	○ 新たな拠点確保に向けて、政策提言を行うと共に具体的な地域における場づくり等の可能性を探ってきた。
④ ボランティアの輪をひろげ、地域住民の主体的取り組みを促す	事業1. 事業6.	◎ 乳幼児親子が主体的に取り組む企画の継続実施など、遊び場参加者の関わりに多様な進展が見られる。
⑤ 被災地域で取り組まれる遊び場づくりとの連携・支援	事業4. 事業5. (2)	○ 複数の地域で、他の団体とも連携しながら支援を行なった。ただし、被災地域全体像を見据えた役割分担等には課題もある。
⑥組織運営基盤づくり	9. 組織運営について	○ 認定NPOとして認定されたことは、最大の成果。ただし、事業の拡大に追い付いていない事務局体制の整備・充実などに課題が残る。

## 1. 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、それを広げる事業

### (1)事業実施にあたっての、連携組織の構築：社会的包容力構築・「絆」再生事業

社会的包容力構築・「絆」再生事業の実施にあたり、2013年度に引き続き仙台市・岩沼市で連携組織を構築、意見交換を行うと共に、連携して事業を実施した。「絆」再生事業は2015年4月より「地域コミュニティ活動を活用した被災者生活支援事業」となったが、本連携組織は引き続き継続する。

構成は、それぞれ以下の通り。

#### ①仙台市

- ・卸町五丁目公園仮設住宅町内会
- ・ニッペリア仮設住宅自治会
- ・六郷・七郷コミネット
- ・若林区社会福祉協議会
- ・仙台市市民協働推進課
- ・仙台市若林区まちづくり推進課

#### ②岩沼市

- ・岩沼市被災者生活支援室
- ・岩沼市子ども福祉課
- ・岩沼市里の杜サポートセンター
- ・岩沼市社会福祉協議会 復興支援センタースマイル
- ・いわぬまあそび場の会
- ・宮城県心のケアセンター

## (2) その他、他団体とのネットワーク

- \* 六郷・七郷コミネット 参加（NPO、民間企業、大学、行政等の連携した復興組織）
  - \* 宮城県子ども支援会議 参加（国連世界防災会議パブリックフォーラム運営では、事務局を担った）
  - \* 若林復興の輪ミーティング 参加（主催：若林区社会福祉協議会）
  - \* 災害子ども支援ネットワークみやぎ 世話人・賛同団体
  - \* 粋々まちなかプロジェクト主催事業への参加・協力・名義後援
  - \* せんだいファミリーサポートネットワークとの乳幼児事業における連携（事業 8.(2)の③・⑤等）
- その他、事業 8. の各事業実施にあたっては、地域団体、NPO、児童館、市民センター、小学校等、多くの団体と連携を行なった。

## 2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業

### (1) 宮城県内外の冒険遊び場活動についての情報収集

理事会を中心とした従来からの仙台市周辺の冒険遊び場活動についての情報交換に加え、遊び場活動の支援（事業 5.）、11 月実施の「冒険遊び場全国一斉開催」への参加・呼びかけ（同）なども通じ、被災地域を中心にひろがりを見せる県内外の遊び場づくり活動の情報を収集した。

### (2) ホームページ等での発信

2013 年度に全面的にリニューアルした団体ホームページに加え、2015 年 1 月より facebook ページも試行、理事・プレーリーダーのブログも含め連携させながら情報発信を行なっている。

### (3) 「冒険あそび場ネットだより 2013」の発行

2014 年 7 月、前年度の活動をとりまとめ発行した。美術系学生のチームにデザイン・編集協力で参画してもらい、受け手の視点に立った紙面づくりを協働で行なうと共に、震災発生後の活動の広がりを「大きな樹」に例える表現などでメッセージをこめた発信をした。

### (4) 取材・報道等への協力

事業 8. 「海岸公園冒険広場の運営」「冒険広場周辺地域で開催する遊び場」を中心に、新聞・ラジオ等の報道に協力した。また、その他情報誌等のメディアの取材に協力した。

<新聞> ・5月5日 河北新報「震災から5度目『子どもの日』～被災地照らす希望の笑顔」

<ラジオ> ・7月11日 エフエムたいはく「日辺で家族になろうよ！」

・11月3日 FMいわぬま「朝どり+楽農村での遊び場」

・1月17日 ラジオ3：ラチオはいらいん若林「復興公営住宅の声」

・3月11日 ラジオ3 特別番組「震災から4年、過去の震災から学ぶ」

<その他> ・9月1日 仙台市震災復興地域かわら版「みらいん」32号 表紙

・11月20日 全国コミュニティライフサポートセンター「地域支え合い情報」vol.27

“子どもの育ちとコミュニティづくりを支える”（特集：巡回と移動でつくる支え合い）

・12月 オモイデピース制作プロジェクト「オモイデピース」

・2月 復興庁「『新しい東北』先導モデル事業事例集」

・2月 せんだいメディアテーク「3がつ11にちをわすれないためにセンター活動報告」

・3月 六郷七郷コミネット「来てけさいん六郷・七郷」

・3月 本の泉社「蠢動する子ども・若者 3.11 被災地からのメッセージ」

“その後の取組みをふりかえって一遊び場の力を信じながら”（寄稿）

### 3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業

#### ◎ 復興庁「新しい東北」先導モデル事業の一環としての遊び場づくり調査

「新しい東北」先導モデル事業の公募に対し一般社団法人日本公園緑地協会と共同で申請し選定された「健やかな子どもの成長を育む地域の遊び場づくり事業」の一環で、以下に取り組んだ。

- ・住民ボランティア協働による遊び場づくり活動のモニタリング
- ・「健やかな子どもの成長を育む身近な遊び場のあり方」モデル像の構築

### 4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業

遊び場づくり団体、その他 NPO、行政、研修者等から寄せられる下記のような各種相談に対応、必要に応じ具体的な支援も行なった。

- ・遊び場づくりへの協力依頼 →事業5.「宮城県を中心とした遊び場活動の支援」
- ・遊び場づくりへのアドバイス
- ・遊び場スタッフの現場研修受入れ クリエイトひがしね（山形市）等
- ・講師派遣
- ・研究者・学生からのヒアリングへの対応

### 5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業

#### (1) 若林区を中心とした、プレーカーを活用しての遊び場の運営

指定管理者として運営する海岸公園冒険広場は現在も休園中だが、若林区六郷・七郷地域を中心に、プレーカーを活用しての遊び場を運営、2014 年度も新たな地域で活動を展開した。（→事業8. 参照）

#### (2) 宮城県を中心とした遊び場活動の支援

県内各地で始まっている市民レベルの遊び場づくりの取り組みを支援するため、プレーリーダー等を派遣した。また、復興支援行事等での遊び場実施の依頼にも協力している。

なお、こうした支援においては、2014 年5月にプレーカーを3台体制にして被災地支援事業の体制を強化した日本冒険遊び場づくり協会とも連携しながら取り組んだ。

- ①ふるじろプレーパークの会「ふるじろプレーパーク」  
6/28 7/31 8/1 12/21 3/29 5/31 6日間のべ10人派遣
- ②「子どものまちいしのまき」ストリートパーティー 10/5 1回2人派遣
- ③名取市生活再建支援課「NATORI こどもかいぎ」8/23 1回3人派遣
- ④東名茶房（東松島市）8/21 1回のべ2人派遣

#### (3) 第5回「冒険遊び場全国一斉開催」への参加

日本冒険遊び場づくり協会が呼びかけた「冒険遊び場全国一斉開催」に参加。本事業の目的は、全国の仲間が一斉に行動することで、外遊びの力と冒険遊び場の存在を広く知らしめ、また各地域の活動者が自分の地域にアピールできる状況をつくることにある。本年も、参加・賛同団体募集の際に宮城県内の多くの団体に参加・賛同の呼びかけを行なった。

#### (4) 杜々かんきょうプログラム実践

平成21年度に仙台市環境局・杜々かんきょう教育プログラムに提案をした幼児から対象とする環境プログラム「いろ色発見隊～季節のカメラマン」を、以下のように実践した。

実施団体	実施日	実施場所	対 象
仙台市上野山保育所	6/24 (火)	保育所周辺(園庭含む)	4・5才児 (21名)
仙台市折立保育所	10/17 (水)	折立公園	4・5才児 (23名)
仙台市中田保育所	10/21 (火)	中田小学校校庭	5才児 (27名)
穀町保育園	10/31 (金)	新寺四丁目公園	3才児 (15名)
和敬保育園①	10/24 (金)	留学生会館	5才児 (14名)
仙台市鶴巻保育所	10/29 (水)	鶴巻一丁目西公園	5才児 (25名)
仙台市根岸保育所	11/5 (水)	大年寺山	5・6才児 (21名)
仙台市支倉保育所	11/7 (金)	西公園	5才児 (20名)
仙台市南光台北保育所	11/10 (月)	保育所周辺の公園	5才児 (20名)
仙台市吉成保育所	11/11 (火)	保育所周辺・森の中	3・5才児 (45名)
大野田すぎのこ保育園	11/13 (木)	富沢公園	5才児 (26名)
和敬保育園②	11/19 (水)	留学生会館	4才児 (18名)

## 6. プレーリーダーの養成に係る事業

2014年度は、重点事業④として「ボランティアの輪をひろげ、地域住民の主体的取り組みを促す」として、人材育成を重点事業に位置付け取り組んだ。

### (1) 講座等の実施

主に、事業8.として実施する遊び場づくりの活動の中で、スタッフ・ボランティアを対象に下記講座を実施した。また、遊び場での実践も含め、遊びに関わる大人の育成に努めた。

実施日	内 容	講 師	実施枠組等	対 象
2014/ 7/ 4	荒井東地区周辺のまちづくり計画と今後の課題	榊原 進氏 (荒井東まちづくり協議会)	「新しい東北」先導モデル事業	スタッフ
2014/11/18	「支援者」「ケアラー」のケア	金 香百合氏 (ホリスティック教育実践研究所)	仙台市・せんだい男女共同参画財団 「女性と防災せんだいフォーラム」 参加企画	スタッフ ボランティア 一般
2014/12/18	手作り凧作り	箕笹 文夫氏 (いわぬまあそび場の会)	いわぬまあそび場の会 研修	ボランティア スタッフ
2015/ 1/ 8	子どもと社会を遊びでつなぐ	荒田 直輝氏 (プレイソーシャルワーカー)	絆再生事業	スタッフ ボランティア 一般
2015/ 1/30	民生委員の仕事と訪問活動で見えること	今野 正志氏 (七郷地区民生委員児童委員協議会)	「新しい東北」先導モデル事業	スタッフ
2015/ 2/10	これまでの活動を振り返り今後の活動を考える	菅 博嗣氏 (あいランドスケープ研究所)	絆再生事業 (岩沼市)	ボランティア スタッフ
2015/ 2/10	スタッフ間の課題意識の共有・チーム作り	菅 博嗣氏 (あいランドスケープ研究所)	絆再生事業	スタッフ
2015/ 3/ 5	子どもの遊びにかかわる大人の役割	天野 秀昭氏 (日本冒険遊び場づくり協会)	絆再生事業	スタッフ ボランティア 一般
2015/ 3/ 6	子どものあそび場への地域の大人の関わり	天野 秀昭氏 (日本冒険遊び場づくり協会)	絆再生事業 (岩沼市)	スタッフ ボランティア 一般
2015/ 1/30	ケガの応急手当	齊藤 信三氏 (当会プレーリーダー/フ レーパークせたかやより出向)	絆再生事業	ボランティア

## (2) 長期インターン生の受入れ

2013 年度に引き続き、住友商事「東日本再生コースチャレンジ・プログラム」のインターンシップ奨励プログラムによる、9 か月間にわたる長期インターン生 1 名を受入れた。

## 7. 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業

### (1) 仙台市すこやか子育てプラン 2015（子ども子育て事業計画）への提言

2014 年度は、今後 5 年間の子どもの育ちと子育て支援の総合的な計画である「仙台市すこやか子育てプラン」の改定時期となったが、中間案に対するパブリックコメント手続きの際に、子どもの遊びの重要性を位置付けるべく、具体的提案を中心に 17 点の意見提出を行なった。全体として記述の弱かった「遊び」についての言及を強める効果が見られた。

### (2) 被災地域の復興においての子どもの遊び場の重要性についての発信

事業 8. として実施する遊び場づくりの活動を通し、被災地域の復興においての子どもの遊び場の重要性について様々な場で発信を行なった。被災地で際立って表れる課題を解決し他地域にも展開していくことを目的とした復興庁「新しい東北」先導モデル事業にも、2013 年度に引き続き取り組んだ（日本公園緑地協会との共同申請事業）。復興公営住宅や現地再建区域での遊び場の実践も行なって、子どもの育成や地域コミュニティづくりに子どもの「遊び場」が果たす役割を訴えた。

### (3) 海岸公園の再整備計画への提案

仙台市が進める海岸公園再整備の計画検討に際し、①自然と人とのつながりの再構築 ②震災記憶の継承 ③新たな賑わい・交流の創出 という、市海岸公園復興基本構想で掲げる 3 つの基本方針それぞれに対応した提案を行なった。事業 8. (1) をベースにして、震災前後を通じて現地状況を継続的に見ているからこそできる具体的な情報提供や提案に努めた。

## 8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業

### (1) 海岸公園冒険広場の運営 【仙台市指定管理業務】

2014 年度は、東洋緑化との共同企業体を組んだ指定管理者として 3 期目の 4 年目であったが、東日本大震災の影響により、2011 年度以来の休園が続いている。そのため、指定管理業務は、昨年度に引き続き、週 1 回の巡回と年 1 回の除草、および視察対応が中心となった。

園内および周辺部では、南北の隣接地に設置されていた災害廃棄物搬入場が 2014 年 3 月で稼働を終了した後も、敷地内を暗渠で横切る二郷堀導水路の工事が 2015 年 3 月まで続き、公園本体の復旧工事は未だ着手されていない。

そんな中、2018 年となった再開後の公園の機能＜震災前からの機能の復旧に加え、避難機能の拡充・震災記憶を継承する機能の付加＞を見据え、単なる管理のみではなく、積極的な役割を担うよう努めた。具体的には、公園の被災状況やその後の変化（工事による人工的な変化から、自然環境的な変化まで含む）の保存・記録や、市が進める復旧工事計画に対して具体的な情報提供や提案を行なった。震災前後を通じて現地状況を継続的に見ているからこそできることには、最大限取り組んだ。

2015 年 3 月に開催された「国連防災世界会議」では、スタディツアー（被災地公式視察）の受入れ先となり、東日本大震災で学んだ教訓を世界各国からの参加者に伝えた。

また、暫定的な津波避難場所に指定され、緊急時には二郷堀導水路はじめ周辺部の工事従事者が避難してることが予定されていることを受け、総合防災訓練に積極的に参加するなどして万々に備えた。

なお、休園中、冒険広場の機能の一部を確保する目的で、「海岸公園冒険広場サテライト業務」が仙台市より委託されている（下記(2)の①）。

## (2) 冒険広場周辺地域および岩沼市で開催する遊び場

拠点としていた海岸公園冒険広場が長期休園となるなか、引き続き、冒険広場からやや内陸部に入った六郷・七郷地域を中心に複数個所で「遊び場づくり」活動を展開した。

目的として、震災前から冒険広場が果たしていた「あそびを通して子どもの育ちを支える」役割を担うことに加え、東日本大震災によってさまざまな不安やストレスを抱える子どもたちに対して、日々の暮らしの中で子どもたちが自らを癒せるような環境をつくることで広い意味での「心のケア」の役割を担うことをめざしている。

2014年度は、「仮設住宅から恒久住宅への移行」が本格化する状況を受け、若林区内の復興公営住宅が立地する地域や岩沼市の自力再建区域でも新たに遊び場を開催するようになった。ここでは、人のつながり～コミュニティづくりへの貢献も目指した。

### <若林区：七郷地域の遊び場> ①～⑤

七郷地域で実施する遊び場は、①②③⑤の4か所が「荒井公共土地区画整理地区」内にある。同地区周辺は、仮設住宅や若林区荒浜地区からの民間賃貸借上住宅（みなし仮設住宅）が多く立地する。また、沿岸部災害危険区域の集団移転先として同地区の一部区画がとして他に先駆け分譲されているほか、周辺で集団移転先や復興公営住宅を含む区画整理地区の造成が3か所で進行している。④を実施する荒井東地区もその一つである。そうした状況下、震災発生後に移り住んだ子どもと、以前から住む子どもたちのつながりが生まれる場としての役割も期待される。

#### ① 七郷あそび場（荒井4号公園） 毎週土曜 計51回

【仙台市海岸公園冒険広場サテライト業務】

休園中の海岸公園冒険広場が目指していた自由な遊び場づくりを、他の公園で実現する「海岸公園冒険広場サテライト業務」として実施している。活動場所の荒井4号公園は、七郷小学校と七郷児童館・市民センターに隣接し、幅広い子どもたちが集まりやすい立地条件になっており、事業目的である多様な遊び場の確保・冒険遊び場の理念の普及に資する場となっている。児童館・市民センターの事業にも協働で取り組むなど、連携を深めている。

#### ② 伊在二丁目公園あそび場（伊在二丁目公園）※「荒井2号公園あそび場」より名称変更 毎週水曜 計50回

【～3月：社会的包容力構築「絆」再生事業／4月～：赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト】

25戸の仮設住宅が立地すると共に、地区最大200戸のプレハブ仮設住宅に近接する。「上荒井公会堂あそびば」との連携も重視しており、乳幼児の親子も多く集まる。昨年度スタートした乳幼児の親子を対象の「ママ&パパかふおえ」（月2回午前中に実施）は、1年間を通して利用者中心に企画・運営する形で実施され、利用者同士の交流を促進している。

#### ③ 上荒井公会堂あそびば「ちびひろ」（上荒井公会堂）毎週木曜 計49回

【～3月：社会的包容力構築「絆」再生事業／4月～：赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト】

町内会運営の公会堂（集会所）を利用しての、乳幼児親子を対象にした屋内中心の遊び場。町内会と連携することで、新住民と地元住民がつながる機会を生むことを意識しながら活動を展開している。

また「伊在二丁目公園あそび場」と連携し、乳幼児親子が屋外の遊び場に足を運びきっかけとなるよう意識している。

#### ④ 荒井東復興公営住宅のひろばであそぼう（荒井東復興公営住宅）月2回→毎週月曜 計20回

【～3月：「新しい東北」先導モデル事業／4月～：地域コミュニティを活用した被災者生活支援事業】

2014年4月、他地区に先駆けて入居開始となった荒井東復興公営住宅に整備された広場で、11月より実施した遊び場である。周辺では、集団移転先、戸建て復興公営住宅、一般の分譲住宅と建設が進ん

であり、同住宅に住む子どもと大人の交流の場になると共に、同住宅に住む人と周辺に住む人の交流の場となることを目指している。「下荒井公会堂であそぼ」と連携して開催している。

⑤ 下荒井公会堂であそぼ（下荒井公会堂）月2回程度 月曜日 計15回

【～3月：「新しい東北」先導モデル事業／4月～：地域コミュニティを活用した被災者生活支援事業】

荒井東復興公営住宅に住み始めた乳幼児親子と周辺地域の人が交流するきっかけになる場を目指して、9月からスタートした。町内会運営の公会堂（集会所）を利用しての、乳幼児親子を対象にした遊び場である。庭が広く、子どもたちは屋内と屋外を行き交っている。

<若林区：六郷地域の遊び場> ⑥・⑦

津波被害を受けた若林区東六郷地区からの仮設住宅・みなし仮設住宅居住者の多くは、2か所の遊び場を実施する六郷地区に集中している。2014年度は、地区での集団移転先の造成が完了、また復興公営住宅も建築が始まるなど恒久住宅による移転再建の場ともなっている。

以前より取りざたされていた東六郷小学校の六郷小学校への統合は、時期を2019年3月とすることで正式に決定した。遊び場では、引き続き両校の児童が本音で交わることのできる場としての重要性を意識しながら、子どもが自分を表現できるよう活動に取り組んでいる。

⑥ 六郷あそび場（六郷小学校校庭） 毎週日曜 計49回

【～9月：子どもサポート基金事業／10月～：社会的包容力構築「絆」再生事業】

六郷小学校は、自校学区域内にも浸水区域を抱えると共に、学区域すべてが津波被害を受けた東六郷小学校が移転・間借りしている六郷中学校にも隣接している。2014年度は遊び場を展開する場に隣接するプールの解体工事が行われた時期もあった。日常の校庭利用も制限される中、児童の遊べる場の確保のため通年で活動を継続した。東六郷小児童も継続的に遊びに来て、交流の場となった。

⑦ ニッペリアあそび場（若林日辺グラウンド仮設住宅）毎週木曜 計49回

【社会的包容力構築「絆」再生事業】

200戸の仮設住宅の敷地内、集会所の機能を持つクラブハウスの周囲で活動を行っている。仮設住宅に住んでいる子ども、みなし仮設に住んでいる子ども、津波被災を免れた子ども、それぞれの被災状況や通学している学校は違うが、遊び場に集い関係を築いている。2014年度、仮設住宅の住民は大きく減っていったが、まだ留まらざるを得ない方が足を止めゆっくりしていく場になると共に、仮設住宅周辺に住む親子も継続的に遊びに来るなど、発災当時とはまた異なる交流の場になっている。

<その他仙台市内で継続的に取り組む遊び場> ⑧～⑩

若林区六郷・七郷地区で始めた上記の巡回型遊び場の活動を知った人たちから声がかかるようになった。以下市内3か所の遊び場は、2012年度に取組みを始めた場所である。

⑧ 卸町五丁目あそび場（若林区：卸町五丁目公園仮設住宅）毎週土曜計50回

【社会的包容力構築「絆」再生事業】

仙台市だけでなく市外や福島県など様々な被災地域から集まって避難生活を送る90世帯ほどの仮設住宅の中にある小さな公園区画での活動。他の仮設住宅と同様、居住者は減ってきているが仮設住宅を出た子どもが転居先から自転車で継続的に遊びに来ているなど、今も仮設住宅に暮らす数少ない親子が仮設住宅外の親子と交流する場にもなっている。また、仮設住宅の高齢者も集まる世代間交流の場となっている。

⑨ 中野小学校あそび場（宮城野区：中野小学校・中野栄小学校校庭）計8回

【社会的包容力構築「絆」再生事業】

学区全域が津波被害を受け、中野栄小学校に間借りし開校している中野小学校の校医から相談を受けて始まった放課後の遊び場である。授業終了後すぐに送迎スクールバスに乗り込まなくてはならない状況下、放課後に子ども同士で遊べる貴重な場の一つとなっている。

2016年3月の閉校が決まるなか、2014年度は、児童の多くが復興公営住宅や集団移転先として移り住む田子西地区での公園活用プロジェクト（市・企業の連携事業）との連携も図った。

⑩ 若林小学校あそび場（若林区：若林小学校校庭）計12回

【～3月：社会的包容力構築「絆」再生事業／4月～：赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト】

若林小学校・若林区中央市民センターからの「放課後子どもたちが思いっきり遊べる場がない」との相談により地区児童館等とも連携して2013年3月に始まった。毎月1回の開催を継続することで、学校内で開かれる遊び場として子どもたちの中でも定着してきた様子が見られる。2014年度は、新たに学生ボランティア団体がスタッフに加わるという進展も見られ、今後はPTAほか地域住民の関わりが増えていくことが期待されている。

<岩沼市で取り組む遊び場> ⑪・⑫

⑪ 里の杜あそび場（岩沼市：里の杜中央公園・総合福祉センター）計51回

【社会的包容力構築「絆」再生事業】

仮設住宅に住む子どもたちが思いっきり遊べる場所がないという声を受け、岩沼市内のプレハブ仮設が全て集まる里の杜地区の公園で始まった遊び場。仮設住宅に住む子どもたちと共に地元の子たちも遊びに来る場となった。2014年度は、夏休みに「子どもたちが集まれる居場所」として仮設集会所を開放する取り組みも行なった。

岩沼市は被災地で最も早いと言われる集団移転事業に続き、災害公営住宅の整備も2015年5月で完了、この一年で大半の住民の転居が進んだ。そんな中、総合福祉センター内で実施していた乳幼児向けの屋内の遊び場「あい・あそび場」は2月で事業を終了したが、利用者の有志が自主サークルをつくり活動を継続するなど、その後につながるものとなった。公園で開かれている「あそび場」についても、地域住民主体の運営に転換していくことを課題として取り組んでいる。

岩沼市はじめ関係各機関が連携すると共に、市民・学生のボランティア等が多数関わり、子どもが多様な大人とかかわる機会ともなっている。

⑫ 楽農村で遊ぼう（岩沼市：産地直売所「朝どり」+市民農園「楽農村」）計5回

【「新しい東北」先導モデル事業】

岩沼市玉浦地区の現地再建区域の農家が運営する市民農園における、農地の自然環境を活かした遊び場。2013年に「子どものあそび場にかかわる大人のためのボランティア養成講座」の参加者の1人が、「震災からの再建にあたって、さまざまな方から支援を受けた恩返しに、多くの人たちが集まり、子どもたちが遊ぶような場所にしていきたい」という思いで自宅敷地を開放し7月にスタートした。土や水・田畑と触れられる環境は都市部に暮らす親子からも好評で、地域交流の活性化などの可能性も見出されている。

(3) 他団体の実施する企画への開催支援等

前年度に引き続き、遊び場活動実施地域の町内会や仮設住宅自治会の夏祭りへの協力等を行なった。

- ① 上荒井町内会「上荒井夏まつり」 8/2
- ② 卸町五丁目公園仮設住宅 夏まつり 8/10
- ③ 若林日辺グラウンド仮設住宅「ニッペリア夏まつり」 8/24

(4) 遊び場づくりと連携した、大人も集まれる「縁側倶楽部」等の支援活動の実施

2011年度から遊び場と並行して実施している「ものづくり+お茶っこのみ（交流サロン）」を、仮設住宅や復興公営住宅の集会所で継続実施し、大人が集うきっかけづくりを行なった。住民同士の交流と併せ、その場に出てくる相談等を諸機関につなぐ場面もあった。ボランティアのコーディネートを通して新住民と周辺の地元住民がつながる機会を生むことを意識しながら活動を展開した。

また、交流活動に取り組む他の支援団体と連携・協力した事業を行なうと共に、随時相談を受けた。

- ① 若林日辺グラウンド仮設住宅「えっちゃんおかの縁側倶楽部」 月1回 計10回実施
- ② 荒井東復興公営住宅集会所「荒井東縁側倶楽部」 11月～ 月2回→月1回 計10回実施
- ③ 岩沼市：里の杜仮設住宅「里の杜縁側倶楽部」南・西・東集会所 各月1回 計30回実施
- ④ その他、他団体と連携した支援活動の企画・実施

### (5) 沿岸部の環境調査

未だ復旧の見通しが立っていない仙台市沿岸部において、生き物の様子から被災地域の「再生」を感じるきっかけとすることを目的に、季節ごと（年4回）、海岸公園冒険広場を中心に沿岸部の生き物の再生状況を調査した。2014年度は、圃場整備により大きく環境が変わっていく周辺田園地帯まで範囲を広げて調査を行なった。

### (6) 仙台平野の居久根再生「大内さんちのイグネ再生プロジェクト」

【「新しい東北」先導モデル事業 ほか】

FEEL Sendai ユースカレッジ、宮城大学地域連携センター、ミモザガーデナーズクラブ、リルーツや市民有志と津波で被災した若林区の居久根再生に取り組んだ。被災した居久根の跡地では、土壌を調査すると共に、実生を探し地図に書き込むなどして、居久根の「未来地図」を作成する作業を行った（実生は、スギやツバキ等9種30本以上発見された）。その他、被災した畑の一角では花畑も育てている。

### (7) 講座等の実施

事業6. で挙げたプレーリーダー養成講座のほか、乳幼児の保護者を対象にした講座を実施した。

◎「子どもおとなもハッピーになる子育て」7/20（共催：若林区文化センター）

講師：金香百合氏（ホリスティック教育実践研究所所長）

### 「事業8.」各取組みの財源別整理

		海岸公園冒険広場 指定管理業務	海岸公園冒険広場 サテライト業務	子どもサポート 基金	社会的包容力構 築・ 「絆」再生事業	地域コミュニティ活動 を活用した 被災者生活支援事業	赤い羽根 チャリティホワイト プロジェクト	「新しい東北」 先導モデル事業
遊 び 場	◎ 冒険広場	◎						
	① 七郷		◎					
	② 伊在二丁目(旧荒井2号)				○(～3月)		○(4月～)	
	③ 上荒井公会堂				○(～3月)		○(4月～)	
	④ 荒井東					○(4月～)		○(～3月)
	⑤ 下荒井					○(4月～)		○(～3月)
	⑥ 六郷			○(～9月)	○(10～3月)	○(4月～)		
	⑦ ニッペリア					◎		
	⑧ 卸町五					◎		
	⑨ 中野小					◎		
	⑩ 若林小					○(～3月)		○(4月～)
	⑪ 里の杜(岩沼)					◎		
	⑫ 楽農村(岩沼)							
お茶っ飲み等支援活動					◎			○(荒井東:～3月)

↑「絆」再生事業を継承した事業

## 9. 組織運営について

### ◎認定NPOの認定について

公益性を認められて税制上の優遇を受けられるようになる認定NPOについて、2014年5月28日に所轄庁である仙台市に申請を行っていたが、8月27日・28日の実地調査等を経て、12月25日に認定を受けることができた。

なお、認定を受けるためのプロセスの中で、職員就業規則等、事務的な整備を行なうことができた。